

南 風

2018年8月 第25号

南小ネットワーク基本理念

みなみかぜ

発行 有秋南小学校区安心安全ネットワーク
問合せ 姉崎保健福祉センター TEL 62-8601

一人ひとりを尊重し
共に支え合い
みんなで創る
私たちのまち

隣組物語2

私はできる 私もできる
誰もができる
助け合い・支え合い！

有秋南小学校区は、約2,400世帯、約5,300人が暮らす“古くからの村落と昭和40～50年代に開発された住宅団地”が併存する郊外地域である。どの世帯もどの人も個性豊かで価値観も行動形態も多様な人々の集合体（隣組）である。

しかし今、この地域住民として取り組まなければならない課題がある。本が人 減少&高齢社会にあることは誰もが知る常識であるが、取り分けこの地が“歪な年齢構成の高齢社会”へと急変することへの対応である。 (2ページへ続く)

日頃からさり気なく気遣い合い
困った時に遠慮なく助けを頼める
私たちのまち！

電話詐欺にだまされないで！

息子や孫、市役所職員、金融機関職員を名乗る者から、「カバンを落した」とか「保険金の過払い金がある」など嘘の電話が多数かけられています。電話を受けたら、自分で家族や親せきに連絡をとり真偽を確認しましょう。また電話de詐欺の可能性が高いことから警察に連絡しましょう。

熱中症を防ぐ！

- * 「水分を」こまめにとろう
- * 「塩分を」ほどよくとろう
- * 「睡眠環境を」快適に保とう
- * 「気温と湿度を」気にしよう
- * 「室内を」涼しくしよう
- * 「服装を」工夫しよう

日本の姿！ 経済大国から老人大国

経済大国とか技術大国といわれたこの国は、いつの間にか未婚大国、おばあちゃん大国、一人暮らし大国、老人大国になっていた。

「2025年問題」という言葉がある。人口ボリュームの大きい団塊世代が75才以上となる2025年頃には、大きな病気を患う人が増え、社会保障給付費が膨張するだけでなく、医療機関や介護施設が足らなくなるのではないかと指摘されている。しかし問題はそれにとどまらない。'20東京オリンピック・パラリンピックの翌年頃から介護離職が増大、企業の人材不足も懸念され、2025年頃にはダブルケアが大問題となる。更に2040年頃には死亡数が激増し、火葬場不足に陥ると予測され、高齢者がピークを迎える2042年頃には、無年金・低年金の貧しく身寄りのない高齢者が街に溢れかえり、生活保護受給者が激増して国家財政がパンクするのではと心配されている。

生産年齢人口の減少下では税収増は望めず、高齢者向け政策の展開を図るためには、「税金と社会保険料のアップ」や「行政サービスのカット」が求められよう。地域の協力を得て暮らし続ける社会づくりを目指す「地域包括ケアシステム」は、その補完策であるが地域の人々の理解と協力が求められている。

FIG-1 年齢別人口構成

2018. 4

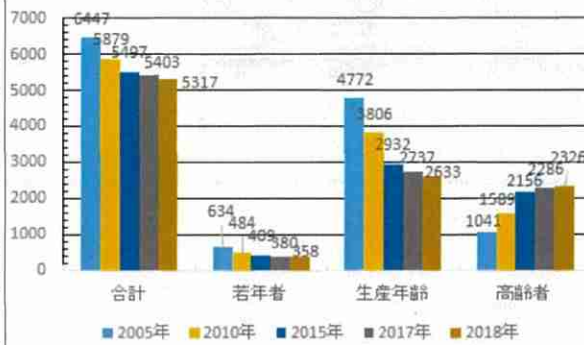
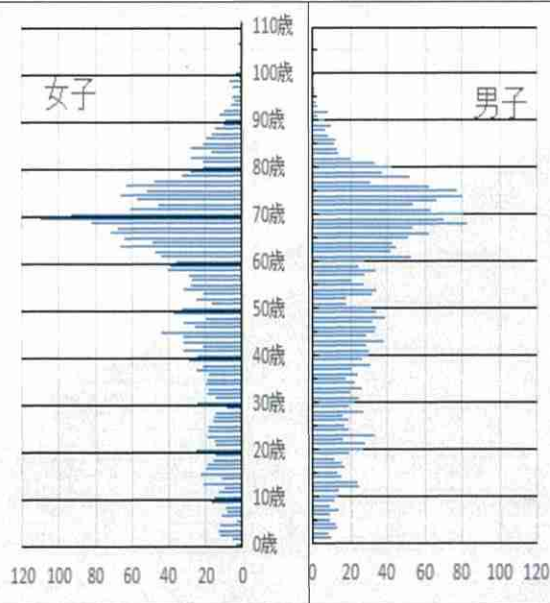


FIG-2 南小地域の人口ピラミッド

2018. 4



18年の13年間に、総人口は1,130人減少(17%減)、若年者人口は276人減少(44%減)、生産年齢人口は2,139人減少(45%減)した。逆に高齢者人口は1,285人増加(123%増)である。即ち、総人口は年々1.3%程度、若年層(0才~64才)は3.4%程度減少しているにもかかわらず高齢者は毎年9.5%も増加している[FIG-1]。

若年層より高齢者が多い高齢社会の人口ピラミッドを“逆ピラミッド”というが、当地は“70才±10才”の限られた範囲の人口がきわめて多く異様なピラミッドをなしている[FIG-2]。こうした人口ピラミッドの場合、加齢による体力・思考力等の低下もまた死期も互いに近接し集中するから、変化が激しく相互扶助もし難くなる。更に、他年代との世代間格差も生じやすいと

いう問題もある。しかし、現在では80才といえども多くは元気であり、また数的にメジャーであるこの世代は、地域づくりの中心的存在でもある[FIG-3]。

その他、“独居高齢者および高齢者のみ世帯の増加問題”がある[FIG-4]。老人の孤立を防ぐため、隣近所や地域の見守りや支え合いが強く求められるところだ。

私たちのまち！ 人口減・少子高齢・孤独

私たちの住む有秋南小学校地域の高齢者人口比率(65才以上)は44%と非常に高く、若年者人口比率(14才以下)は7%、生産年齢人口比率(15~64才)は49%と低く、極端に高齢化の進んだ地域といえる。

(参考；市原市全体では、高齢者人口比率=28%、若年者人口比率=12%、生産年齢人口比率=60%である)。

2005年から20

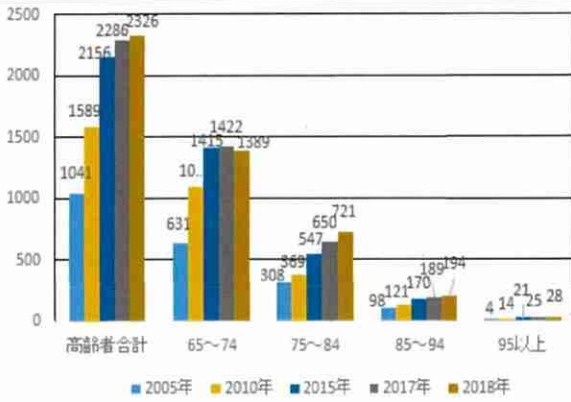
私たちのまち！ 人が減った？

気のせいかな暑さのせいかな、道行く人も無く蝉の声だけが耳に染み入る夏である。つい

FIG-4 高齢者世帯数の推移 H24⇒H30



FIG-3 高齢者 (>65) の年齢分布 2018.4



庭木の手入れ等の日常生活を支援する桜台のボランティアでは、9年前の発足時には「支援利用者」対「支援協力者」の比率は“1:1”だったが、2, 3年前から協力者はむしろ減少するのに利用者だけが急増して“4:1”となっている。

ことが必要である。自分のためにも人のためにも、相互扶助のできる“素直で優しい老人”になりたい。安心して暮らせる街づくりに参画したい。

声掛けをする、挨拶をする、茶話会や健康体操会に参加する、ゴミ出しをする、読書をする、ジョギングをする、庭の草むしりをする、ペットと散歩する、家庭菜園をする、コーラスなど趣味のグループに入る、安心訪問員や学校支援ボランティアをしてみる等々、自分の好きなこと、出来ることから始めたい。行動によって、交流が始まり、“人の絆”が生まれ拡大して“地域の絆”となる。

私も出来る“声掛け・挨拶”は、誰でもできる簡単な行為であるが、例えば回覧板リレーの投函時に、一声掛けることにすれば、話ができ安否確認もできるという大きな効用がある。更に“声掛け”は、災害時等緊急事態には欠かせない助け合いツールであり、また当地のような超高齢社会においては日常的に必要な支え合い・助け合いツールである。

ジョギングにしても同様で、新しい出会いによって新しい絆が生まれる。

一人ひとりが自分の出来ることを実行することで人々の信頼と連帯は深まり地域力はアップする。それが人口減少・高齢社会の力となる。(笹野)

こうした風景も出来事も“人口減少や高齢化”によってもたらされる厳しい現実であろう。

私ができること！

国家レベルの問題であるとはいえ、自分たちの問題であり、次世代を担う子や孫たちの問題である。街づくりは、そこに住む先人が知恵をしぼり汗をかきながら、長い歳月を掛けて築いてきたものだ。それはこれからも変わらない。

今、私たちが出来ること、しなければならないことは？

人が加齢によって「衰える」のは仕方のないことであるが、ものごとの捉え方、気持ちの持ち方によって、老い方も様々である。偏屈だったり自分と違う考えや意見が受け止められないようでは連携は難しい。上手な加齢・高齢化に努める

2, 3年前までは、猛暑の中にも子どもたちの元気な姿や声があった。人が減った？最大時900人いた南小児童は、今、150人を割った。また町会や自治会においては、世帯減少による班編成の見直しや高齢者の高齢化による班長役の免除等の町会・自治会運営について新しい模索が必要になっている。

最近、気になる風景がある。その一つは、高齢者が一人で大きなキャリーバッグを引いて隣町の食料品スーパーまで行き来する姿である。運転免許証を返納したのだろうか、一人暮らしなのだろうか、連れあいが具合でも悪いのだろうか、近親者は近くに居ないのだろうか等々いろいろなことが脳裏をかすめる。どうすればもっと笑顔の楽しい買い物になるのだろうか。

また家事手伝い、外出支援、

平成30年7月、西日本豪雨災害 死者220人超
 梅雨前線等による豪雨災害により生命や身体に危害を受ける大災害が発生した。

この緊迫のなか、
 “避難所に行くよー、一緒だよ 急いでー！”
 ご近所さんの声掛け。。。。。。。。。。
 ありがとう！

市原市では「誰もが住みなれた地域で末長く安心して暮らせるまちづくり」を目指して「安心生活見守り支援事業」を展開している。有秋南小学校区においても、独居高齢者や障害者の方がご近所同士の“ちょっとした声掛け”を通し、安心の生活が出来るよう南小ネットワークを中心に市、社会福祉協議会、町会・自治会、地域ボランティア団体と協働してこの活動を推進している。

訪問して声掛けをするメンバーを「安心訪問員」といいますが、高齢者等とよりスムーズな会話が出来るといふいろいろと意見交換等をしながらレベルアップに努めています。



安心訪問員フォローアップ研修&懇親
2018.7.26



“南っ子”と共に！

1. 「こども110番の家」になって子どもを犯罪から守ろう！

「こども110番の家」とは、子どもたちが登下校時や公園などで遊んでいて、不審者から声掛け・チカン・つきまとい行為などの被害を受けた時に、安心して避難できる民家・商店・事業所などのことをいいます。

2. 「学校支援ボランティア」で“あなたの生きた知識・経験を子どもたちに伝えよう！”

学習指導補助、登下校時の安全指導補助、草刈、花壇の草取りなど、自分のできること・得意なことを生かして子どもたちと接してみませんか。最近、登校時の安全見守り者が少なくなっています。ご協力の程よろしくお願いします。



3. 「ベルマーク収集」にご協力を！

ベルマーク運動は、PTAのボランティアで生み出された資金（ベルマーク預金）で学校の設備や教材をそろえ、さらに国の内外でハンディを背負いながら学んでいる子どもたちに援助の手を差し伸べます。マーク集めから始まる誰でも気楽に参加できるボランティアです。ベルマークの回収箱は「桜台郵便局」「桜台自治会館」「椎の木台自治会館」に設置してあります。

★ご連絡・お問合せ★

- ・有秋南小学校/PTA
- ・南小安心安全ネットワーク

イベント案内 (8月～10月)

月	日	曜	行 事
8	20	月	南小草刈ボランティア
	21	火	NW推進委員会 (桜台)
	27	月	有秋社協通信訓練
9	2	日	市原市総合防災訓練
	10	月	南小集団下校訓練
	18	火	NW推進委員会 (椎の木台)
	19	水	南小草刈ボランティア
10	25	火	桜台安心訪問員会議
	6	土	椎の木台安心訪問員会議
	13	土	市民体育祭
	16	火	NW推進委員会 (桜台)
	17	水	南小草刈ボランティア
10	20	土	南小PTAバザー
	28	日	有秋福祉バザー

編集後記

私たちの地域では、夏休み中の土曜日・日曜日には、地元の公園で朝のラジオ体操を行っている。毎年やっている事だが、今年は何故か参加者が増えたように思う。例年30～40人

だが今年40人～50人ほどである。幼児、小学生の子どもたちとお母さんそして若いお祖母ちゃんが目につく。

本稿中には“人が減った”と書いたが、間違いなら良いが？みなさまはいかがお感じでしょうか。(S.T)